P05

「医学図書館」誌における Book Reviews 記事の分析

大谷裕
東京医科大学図書館分館

背景

NPO 法人日本医学図書館協会の機関誌である「医学図書館」では「Book Review(s)」というコーナーが設けられています。このコーナーは「批判的であるより報知的な書評を，できるだけ広い観点から取り上げる」[1] ことを目的として原稿を募っており，毎号，様々な資料が紹介されています。「医学図書館」誌において，このような資料紹介を目的とした記事は 1 巻 2 号（1954）の「ブックレビュー」コーナーで「British Medical Bulletin」が取り上げられたことにはじまり，最新刊 53 巻 2 号の「Book Review(s)」コーナーまでに，述べ 501 点の資料が取り上げられてきました。1983 年の 30 周年アンケート [2]，2004 年に行われた「医学図書館」50 巻記念読者アンケート [3] においてもそれぞれ「よく目を通す記事」の上位に位置し，読者から好評を得ていることがうかがえます。

目的

今回,「医学図書館」誌がどのような方向性で資料紹介記事を掲載してきたか，また記事の執筆者（＝「医学図書館」誌の読者）がどのような本に興味を持ってきたかを調査し，「医学図書館」誌における「Book Review(s)」コーナーの役割を考えてみたいと思います。

方法

（1）「医学図書館」誌における資料紹介記事の変遷をまとめ，経年的な動向を探る。
（2）資料紹介の記事内容から分類を試み，記事の特色と傾向を明らかにする。

また，会場では本誌が今まで取り上げてきた資料をほんの一部ですが，展示して実際に手にとってご覧いただきたいと考えています。

【参考文献】

1）「医学図書館」編集委員会.「医学図書館」執筆ガイド 2005 年版：医学図書館　2005；52（1）：105－107
2）「医学図書館」編集委員会.「医学図書館」読者アンケートの集計結果：医学図書館 1983；30（2）：154－169
3）富田麻子.「医学図書館」50 巻記念読者アンケート集計報告：医学図書館　2004；51（1）：33－46